

国語科学習指導案

学 級： 1 年 1 組 40 人
場 所： 1 年 1 組 教室
指導者： 教諭 玉利 さおり

1 単元名 本の紹介カードを作ろう (教材名 「タオル」)

2 単元について

(1) 教材観

本教材は、少年が自分の祖父の死にあたって、最初はそれを現実として受け止めることができずいたが、周囲の人物とのやりとりや関わりを通して、祖父のいない現実を徐々に実感し、その死を受け止めることができるようになる姿を描いた作品である。

主題の中心となっている祖父の死は、この時期の生徒達にとって日常生活で起こりうる身近なことである。また小学5年生の「少年」と、中学1年生とは年齢も近く、「少年」の言動に共感しながら、少年の気持ちになってその時々気持ちを考えることができるのではないかと思われる。身近な人の死に向き合い、少しずつ受け止めていく「少年」の姿に触れ、人の生と死について考えながら物語を読み深めていくことも大変意義深いことといえる。

(2) 生徒観

中学1年生は小学6年生の「読むこと」で「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる」学習をしている。それらの学習の中で「象徴性や暗示性の高い表現や内容」を読みとる学習もしている。しかし本学級は4月に実施した検査の結果で、大領域では「読むこと」が、中領域では「文学的な文章を読むこと」の正答率が最も低いことがわかった。場面の展開に即してしっかり読み取りをさせながら、登場人物の心情や主題に迫る学習をより丁寧に行っていく必要があると考える。本単元では、本を紹介するために読み取るという目的意識と相手意識を持たせた上で、主体的に物語文の学習に取り組ませていきたい。

(3) 指導観

本単元では目的意識、相手意識をもって読み取りを行わせるために、「本の紹介カードを作成する」という、単元を貫く言語活動を設定した。課題に沿って「タオル」を読みながら、他の作品でも実際に紹介カードを作るために平行読書を行う。今回作成させる紹介カードとは、本の帯のような短い言葉でその物語を紹介するカードである。キーワードからキャッチコピーを考えたり、主題をとらえて引用文を選んだりして短い言葉で効果的に本を紹介する方法を全体で学習する。そして学習を生かした形で、他の作品について各自で紹介カードを作成させる。内容や主題をしっかりと把握し、その作品に対して自分の考えをもった上で紹介することで、本を手にとってみたくなるような紹介カードが完成する。内容を踏まえてどの部分に焦点をあて、どこをどう引用すれば効果的に紹介できるのか等を考えながら紹介カードを作成することでより深い読み取りにつながっていくと考える。

本校の研究との関連については、紹介カードに載せる引用文を主題をふまえて選択し、その理由について自分の考えを書くという時間に判断基準を設定し、評価を行う。国語科の「判断基準Bに到達させるための指導」として、きちんと自分の考えをもった上で生徒同士の話し合いによって思考をできる限り深めさせたい。そして、思考したことを、最終的な自分の考えとして記述させる際、根拠を明確にして全員が考えを表現できるよう、ワークシートを工夫したりモデル文を準備したりして指導にあたりたい。

3 単元の指導目標

- 本の紹介をするために場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解させる。
- 作品の文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問を持ったりして自分の考えをもって、本を紹介させる。

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
① 課題に沿って本を選びその内容を進んで紹介しようとしている。	① 場面の展開や登場人物の描写に注意して文章を読み内容を理解して、紹介したい部分を決めている。 ② 選んだ本の文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問を持ったりして自分の考えを広げ、本を紹介している。	① 語句の辞書的な意味から文脈上での意味を考え、それが登場人物の心情を表す上でどのような効果を与えているか考えている。

(2) 指導と評価の計画

時	指導内容	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習内容を、相手意識や目的意識をもたせながら説明し、学習計画を確認させる。 ○ 紹介カードの内容について例を示しながら説明する。 「書名・著者名」「あらすじ」「キャッチコピー」「一文の引用文」 ○ 「タオル」を読んで初読の感想を書かせる。 ○ 平行読書の小説を選ばせる。(重松清著の短編集「小学5年生」より) 	アの①
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出漢字と語句の確認をさせる。 ○ あらすじと、登場人物の確認をする。 ○ 紹介カードに載せるために、あらすじを百字程度に要約させる。 	エの① オの①
3	紹介カード作成のために「主題に迫る①」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 各場面の「少年」の心情描写とその変化をとらえさせ、なぜ泣けなかったのか、なぜ涙が出たのか考えさせる。 ○ 少年の「涙」に注目させ「キャッチコピー」を考えさせる。 	エの①
4	紹介カード作成のために「主題に迫る②」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 少年が涙を流すクライマックスの場面について考えさせる。 ○ 「タオル」の主題を考えさせ、全体で確認させる。 ○ 紹介カードに引用する一文について自分の考えを持たせる。 	エの①
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題を踏まえて「タオル」を紹介するための引用文を決め、その理由について自分の考えを書かせる。 	エの①
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを生かして、平行読書で読んだ小説について、紹介カードを作成させる。 	アの① エの②
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを生かした紹介カードを完成、清書させる。 ○ 紹介カードの発表会をさせ、互いに評価させる。 ○ 学習を通して深まった考えを書かせ単元のまとめをする。 	アの① エの②

5 本時の実際（5／7）

(1) 教材名 「タオル」

(2) 学習目標

- 「タオル」を紹介するときの、引用文の選び方について理解することができる。

(3) 判断基準の設定

評価規準	「読む能力」 ○ 物語の主題をふまえて引用して紹介する一文を決め、その理由について自分の考えを述べている。
評価の場面	○ 本時の終末時
評価の対象	○ ワークシートの記述
判断の要素	ア 紹介したい文の引用 イ 選んだ理由 ウ 主題 エ 自分の考え
尺度	判断基準
B	ア 紹介したい一文を選んで挙げている。 イ 選んだ理由について主題と関連させて述べている。 ウ 「死を実感」「死に向き合う」「死を受け入れていく」等の主題に関連したキーワードを使って主題を簡潔に説明している。 エ 引用する部分に対する自分の解釈や考えを述べている。
	【予想される生徒の表現例】 私は、「まぶしさに目を細め、またたくと熱いものがまぶたからあふれ出た。」という一文を引用して紹介したいと思う。それは、ずっと泣けなかった少年が初めて涙を流す所だからだ。この物語は、祖父の死をなかなか実感できなかった少年が徐々に「死」というものを受け止めていく物語だ。おじいちゃんの匂いのするタオルを巻き、おじいちゃんと同じ格好で写真を撮る時おじいちゃんはいないのだと実感し涙が出る。ここが、少年がおじいちゃんの死をやっと受け止めた瞬間だったと思う。
	【C状況の生徒への補充指導】 ○ 文章構成のヒントを入れた「書けるよガイド」を渡し、要素ごとに確認させる。 ○ 主題について再度確認させ、自分が選んだ文章がどういう意味をもつか考えさせる。
A	(B状況に加えて) ○ 自分が選んだ一文について主題と関連付けて自分の解釈がより詳しく述べられている。 ○ 死を受け止める行為が少年の成長へとつながっていることについて述べている。
	【B状況の生徒への深化指導】 ○ 自分が選んだ一文の内容について、自分の解釈をより詳しく説明させる。 ○ 死を現実として受け入れていくということが少年にとってどのような意味をもつか、さらに考えさせる。

(4) 判断基準Bに到達させるための指導

ア 思考を深める話し合い活動の工夫

話し合いカードを活用して自分の考えをしっかりと話し合いに臨ませ、全員が意見を述べ合う中で一人一人の思考を深めさせる。

イ 根拠を明確にして自分の考えを書かせる指導の工夫

ワークシートを工夫して、思考したことを根拠を明確にして表現できるようにさせる。また、他の物語文で作成したモデル文を生徒に提示することで、書き上げる文章のイメージをもたせる。

(5) 授業の展開

発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
導入	3分	一斉	1 前時までに学習したことを振り返る。 2 本時の学習課題・学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 本の紹介をするための読み取りをしてきたことを確認させる。 引用文だけが空欄の「タオル」の紹介カードを配布し、学習意欲を喚起する。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 「タオル」を紹介するための一文を主題をふまえて選び、その理由について自分の考えを書こう。 </div>				
展開	2分	一斉	3 主題について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 引用文の選択条件である主題について前時までの学習を振り返り、全体で確認させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">ア</div> 自分の考えを書いた話し合いカードを用いて、全員が自分の考えを述べ合い各自の思考が深まるようにさせる。
	3分	個別	4 自分が選んだ一文についての自分の考えを話し合いカードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に考えた自分の考えを確認させてから話し合いに臨ませる。 	
	10分	班	5 「タオル」を紹介するのにどの引用文が最もふさわしいか班で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合う内容を明確に示し焦点化させることで話し合いの内容を深めさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 主題を踏まえて、この物語を紹介するのに最もふさわしい一文はどれか。その理由も含めて話し合おう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 理由を明確にしながら一文を決める話し合いをさせる。 	
10分	一斉	6 話し合っ考えたことを班ごとに発表し、引用文について全体で考える。	<ul style="list-style-type: none"> 主題にふれながら、それぞれの一文の持つ意味を考えさせられるようにする。 		

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
展 開	15分	個	7 最終的に自分が選んだ引用文とその理由について自分の考えをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いや考えの共有を通して深まったり広がったした考えを書かせるよう指示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>紹介カードにどの一文を載せるか、話し合ったり考えたりしたことを踏まえてもう一度考えよう。</p> <p>なぜその文章を選んだのか、その一文の意味は？その一文に主題がどんなふうに表れているのか、自分の考えを書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 書き出せない生徒には書き出しや構成を示した「書けるよガイド」を渡し机間指導する。 主題について再度確認させ、自分が選んだ文章がどういう意味をもつか考えさせる。 <p style="text-align: center;">【補充指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由の説明がさらに具体的になるように指示する。 死を受け止められた少年の「成長」に気づかせる発問をする。 <p style="text-align: center;">【深化指導】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>なかなか祖父の死を受け止められなかった少年が、人の死の意味を実感し、そして受け止め、涙する。これは、少年の、何？</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">イ</div> <p>他の物語で書いたモデル文を参考にさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">イ</div> <p>ワークシートを工夫して、思考したことを根拠を明確にして表現できるようにさせる。</p>
	5分	一斉	8 記述した文章を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">判断基準Bの生徒の表現例参照</div>	<ul style="list-style-type: none"> B 状況の生徒、A 状況の生徒の順に発表させる。 ICT 機器を使って発表させる。 模範例を示し、判断の要素を示しながらまとめる。 	
終 末	2分	一斉	9 本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">本を紹介する時は、その主題をきちんとふまえて引用文等を決めることが大切である。</div>		
			10 自己評価をして、次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価で思考の深まりについて確認させる。 平行読書している作品の紹介カード作成につなげる。 	